様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１７４６３

研究課題名（和文）妊娠期における男性の肯定感尺度の開発と検証

研究課題名（英文）Development of positive experience scale for prenatal father

研究代表者
武石　陽子（Takeishi, Yoko）

東北大学・医学系研究科・助教

研究者番号：００５８６５０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　妊娠期における男性の肯定的な体験や感情を明らかにするという目的のもと、文献検討およびインタビュー調査を行った。これらより、10カテゴリーと57サブカテゴリーが抽出された。
　妊娠期における男性の肯定的体験尺度を開発するという目的のもと、文献検討およびインタビュー調査から57項目の尺度案を作成した。Web調査にて300名の妊娠期にある断裁のデータを得て、尺度の信頼性と妥当性を確認した。これらより3因子28項目の尺度として完成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
妊娠期から育児期の男性が肯定的感情を持つことで、親になる準備期間や育児に直面した際に感じるストレスや不安といった否定的感情を軽減させることが期待できる。本研究で開発された尺度で、妊娠期の男性の肯定的な体験を量的に測定できることにより、児誕生後の育児期における男性の育児参加状況や健康状態との関連を明らかにすることができる。これにより、妊娠期間という育児期に先がけて育児参加を促す支援や、育児期のうつ病の予防などの健康への予防的支援の構築へとつながる。

研究成果の概要（英文）：A literature review and an interview survey were conducted for the purpose of clarifying positive experiences and emotions of men during pregnancy. From these, 10 categories and 57 subcategories were extracted.
 For the purpose of developing a positive experience scale for men during pregnancy, a scale proposal consisted of 57 items was created from the literature review and interview survey. We obtained data among 300 men during pregnancy via an online survey and confirmed the reliability and validity of the scale. From these, it was completed as the scale of 28 items in 3 factors.

研究分野：看護学

キーワード：父親役割　親役割準備　妊娠期の肯定的な体験　移行期　父親の責任

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年，わが国では，イクメンプロジェクトやワークライフバランスの取り組みの一つとしての男性の家庭生活への関わり推進，そして男性の育児休業取得率を 2020 年までに 13%にするという政府目標など，男性の育児参加が急速に進められつつある．しかし，その一方で，男性の家事育児関連時間は増加傾向にあるといわれるが，67 分/日(2011 年)と，世界の先進国の約 180 分/日と比較すると，低水準にとどまっている．日本の男性の育児休暇期間の思いを調査した結果，育児を楽しいと感じつつも，育児は不慣れでつらいと感じており，このような否定的感情はうつ病へとつながっていく可能性がある．実際，産後うつ病は女性だけでなく，2.4–18.0%もの男性が体験していると報告されている．

男性にとって，父親役割の獲得は女性が母親役割を獲得する過程よりも遅れるといわれているが，男性もまた妊娠期から親になる準備が育まれていく．また，男性の妊娠中の妻へのサポートは，妊娠中及び産後の良好な夫婦関係や，妊婦の良い精神的健康状態に寄与し，父親が育児に参加することは，母親の育児不安や抑うつ症状を軽減させるといった母親への効果がある．さらに，父親自身にとってもの養育者としての自信や自己成長・発達へとつながり，子どもにとっては学習能力や精神的健康などの成長発達によい影響があることが明らかになっている．

一般に，我々が肯定的感情を持つことは，低い罹患率や，症状主訴や痛みの訴えの減少，免疫システムの向上など，健康に良い影響があることだけでなく，ストレスへの寛容性の増加や，現実の状況に対する受容や対処についてもユーモアをもって行うことができるなど，精神的な健康へもよい影響が報告されている．親になることは妊娠期から始まっていること，妊娠期の感情は出産後の感情と関連があることを踏まえると，妊娠期から育児期の男性が肯定的感情を持つことで，親になる準備期間や育児に直面した際に感じるストレスや不安といった否定的感情を軽減させることが期待できる．

２．研究の目的

本研究の目的は，妊娠期における男性の肯定的な体験や感情を測定できる尺度を開発することである．

３．研究の方法

古典的テスト理論に基づき，測定概念の明確化と項目プールの生成，代表サンプルによる調査にて信頼性と妥当性の検証を行った．

(1)　測定概念の明確化と項目プールの生成

①　研究デザイン：文献検討，観察研究

文献検討

②　対象・調査方法：

検索エンジン：医中誌，CiNii，MEDLINE，Web of Science

発行年：指定せず

検索キーワード：「妊娠 or 妊娠期 or 妊婦 or 第１子」and「男性 or 父親 or 親になる」and「感情 or 体験 or 経験 or 過程」

③　分析方法：

母性看護学研究者 3 名による専門家会議にて，質的帰納的に分析した．

観察研究

②　対象者：第 1 子妊娠中または出産後の父親

適格基準：

i. 初めてのわが子を妊娠している妻またはパートナーがいる男性
ii. 年齢 20 歳以上
iii. 妊娠経過に医学的問題がない

除外基準：

i. これまでに子どもを持った経験がある男性(養子も含む)
ii. 年齢 20 歳未満

③　調査方法：

インタビュー，半構造的面接法

研究施設，対象者の自宅など，対象者の都合に合わせ，インタビュー調査を行い(60 分程度)，IC レコーダに録音する．

面接時は，研究についての説明を行い，同意書に署名後，インタビューを開始する．

リクルート方法

ホームページ上で対象者募集の呼びかけをするとともに，スノーボールサンプリングを用いて対象者を募集する．

④　調査内容：

妊娠期にある男性の肯定的体験，対象者の属性（年齢，就労状況，妻の年齢，妻の妊娠週数）

インタビューガイド：

i. 妊娠を知ってどんなお気持ちでしたか.
ii. 妊娠を知ってうれしかったことは何ですか．またその理由は何ですか.
iii. 妊娠されている妻(またはパートナー)に対して思うことは何ですか?
iv. 妊娠期だからこそ, うれしいこと, わくわくすること, 楽しいと思うことは何ですか.
v. またなぜそのように思うのですか.

⑤ 分析方法

インタビュー内容から逐語録を作成する．作成された逐語録は複数の研究者によって何度も読み，簡潔な一文となるコードを作成，そののち，コードの意味内容の類似性・相違性によりカテゴリーを作成する.

文献検討の結果と統合し，尺度の項目を生成する.

⑥ 倫理的配慮

本研究は, 東北大学大学院医学系研究科倫理委員会の承認を得て行った（2017-1-987）.

(2) 代表サンプルによる調査

① 研究デザイン：観察研究

② 対象者：第 1 子妊娠中または出産後の父親

適格基準：

i. 初めてのわが子を妊娠している妻またはパートナーがいる男性
ii. 年齢 20 歳以上
iii. 妊娠経過に医学的問題がない

除外基準：

i. これまでに子どもを持った経験がある男性(養子も含む)
ii. 年齢 20 歳未満

③ 調査方法：Web 調査

④ 調査内容：

男性の肯定感：３－１．測定概念の明確化と項目プールの生成で選択された 57 項目

基準関連妥当性としての類似概念：夫婦関係満足度（QMI; Quality Marital Index），責任感（1 項目 Visual Analog Scale），幸福感（1 項目 Visual Analog Scale）

属性：年齢，最終学歴，就労状況，妻の妊娠週数，妊娠の計画性など

⑤ 分析方法：

項目選択および内容妥当性：探索的因子分析，最尤法，プロマックス回転

基準観念妥当性および構成概念妥当性：Pearson の相関係数

信頼性：Cronbach のα係数

⑥ 倫理的配慮

本研究は, 東北大学大学院医学系研究科倫理委員会の承認を得て行った（2019-1-506）.

４．研究成果

(1) 妊娠期における男性の肯定的な体験や感情

該当した 19 論文を分析した結果，妊娠期の男性における肯定的体験や感情は 252 のコード，39 のサブカテゴリーに分類された．さらにこれは「妊娠そのものへの喜び」「妊娠している妻へのいたわり」「妊娠への関与による満足感」「妊娠による家族の絆の深まり」「父親になることへの喜び」「お腹の中のわが子への愛着」「わが子がいる生活への期待」「親になる意識からくる社会的豊かさ」「親になる意識からくる精神的豊かさ」「妊娠・出産の不安が軽減して安心」の 10 のカテゴリーに分類された.

インタビュー調査ではのべ 10 名（妻が妊娠中：7 名，妻が出産後：3 名）が分析対象とされ，妻が妊娠中であった対象者の妻の妊娠週数は，17～38 週，妻がすでに出産後の対象者は出産後 3～6 か月であり，産後の対象者については，妊娠中に限った体験や感情であることに十分に注意をしてデータを収集し分析した．229 のコードが抽出され，これらは 43 のサブカテゴリーに分類され，さらに文献検討のカテゴリー名を修正し，【男性としての役割達成】【妊娠そのものへの喜び】【妊娠している妻を気遣う】【妊娠，出産，育児への関心の高まり】【妻との関係や時間を大切にする】【父親になることへの喜び】【我が子を実感して嬉しい】【将来の我が子や家族を想像して楽しい】【親になることによる変化を肯定的にとらえている】【周囲のサポート，環境が嬉しい】の 10 のカテゴリーに分類された．文献検討と比較すると，新しいカテゴリーは発見されなかったが，文献検討では認められなかったサブカテゴリーが 13 存在した．一方で，文献検討独自のものとしては，14 のサブカテゴリーが存在した.

文献およびインタビューから得られたサブカテゴリーを，読み取りやすいように修正した 57 項目を含む妊娠期男性肯定感尺度案を作成した.

(2) 妊娠期男性肯定感尺度の信頼性妥当性の検証

Web 調査にて回収した 300 名分のデータを確認し，無気力回答を除外した 270 名分を分析対象とした．平均年齢は，38.2±8.3（22〜60）歳であり，30 代が 138 名（51.1%）を占めた．探索的因子分析により 3 因子 28 項目に精選され，Cronbach’s αは 0.974 であった．夫婦関係満足度(QMI)との正の相関（r=0.477, p<0.01），責任感との正の相関（r=0.516, p<0.01），幸福感との正の相関（r=0.419, p<0.01）により基準関連妥当性が確保された．

今後，本尺度と育児期の養育状況やうつ症状などとの関連検証により，妊娠期の男性の肯定感がその後に続く育児期の健康的な養育状況へつながるか明らかにしていく必要がある．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 上池　梨紗
２．発表標題 妊娠期の男性における肯定的な体験‐国内の文献より
３．学会等名 第20回日本母性看護学会学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	中村　康香 (NAKAMURA YASUKA)	東北大学・医学系研究科・准教授 (11301)	
研究協力者	吉沢　豊子 (YOSHIZAWA TOYOKO)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	